

第 137 回日本森林学会大会のお知らせ (2025/11/08)

一般社団法人 日本森林学会会長 正木 隆
第 137 回日本森林学会大会運営委員長 上條 隆志

第 137 回日本森林学会大会は、つくば国際会議場および筑波大学（つくば市）で対面開催します。研究発表の形式・方法等に関しては「4. 研究発表の概要」と「5. 発表方法」を、大会参加申込み方法に関しては「6. 大会参加の申込み」をご参照ください。その他、詳細は決まり次第随時学会ウェブサイト (<https://www.forestry.jp/meeting/>) に掲載します。

(目 次)

1. 日 程 【重要な期日】
2. 会 場
3. 参加・発表資格
4. 研究発表の概要
5. 発表方法
6. 大会参加の申込み
7. 研究発表の申込み
8. 講演要旨集原稿の提出
9. 学生ポスター賞について
10. 高校生ポスター発表の募集
11. 託児室の設置等について
12. 関連研究集会について
13. 大会に関する各種問い合わせ
14. 部門キーワード

1. 日 程	午前	午後
2025 年 3 月 16 日 (月)	開会式、学会各賞授賞式、受賞者講演、公開シンポジウム	
17 日 (火)	研究発表、学会企画など	
18 日 (水)	研究発表、学会企画など、閉会式	
19 日 (木)	関連研究集会など (筑波大学)	

【重要な期日】

- 2025 年 11 月 14 日 (金) 23 : 59 研究発表する場合の大会参加申込み、参加費支払いの締切
" 11 月 14 日 (金) 23 : 59 研究発表の申込み、学生ポスター賞の応募の締切
" 11 月 14 日 (金) 23 : 59 高校生ポスター発表の申込みの締切
" 11 月 28 日 (金) 17 : 00 関連研究集会の申込み、大会プログラムへの掲載申込みの締切
2026 年 1 月 13 日 (火) 23 : 59 講演要旨集原稿の提出締切 (研究発表する場合)
" 3 月 6 日 (金) 23 : 59 オンライン掲示用ポスターファイルの提出締切

(研究発表しない場合 (聴講のみ) の大会参加申込み及び参加費支払いの締切は大会当日 (3 月 18 日 (水) 17 : 00) まで受け付けます。但し、オンラインによる参加申込と参加費の支払いが必要です。会場での申込・支払いは出来ません (下の「大会参加の申し込み」を参照)。

2. 会 場

3 月 16 日 (月) ~ 18 日 (水) : つくば国際会議場 (つくば市竹園 2 丁目 20-3)

3月19日（木）： 筑波大学（つくば市天王台 1-1-1）

公開シンポジウム： 対面開催ですが、インターネットでも配信します。

テーマ：「つくば市の生物多様性と森林（仮）」

日時：2026年3月16日（月） 13：30～

場所：会場に関する詳細情報は後日更新します。

懇親会：

日時：2026年3月16日（月）18：00～（公開シンポジウム終了後）

※詳細情報は後日更新します

場所：ホテル日航つくば（つくば市吾妻1丁目1364-1）

3. 参加・発表資格

【参加資格】

- ・ 会員・非会員を問わず、どなたでも大会に参加できます。
- ・ オンラインによる参加登録と参加費の支払いが必要です（下の「大会参加の申し込み」を参照）。
- ・ 公開シンポジウムのみ参加には、参加登録と参加費は不要です。

【発表資格】

- ・ 研究発表は原則として本学会会員のみ可能です。会員でない方は、研究発表申込みの前に、学会ウェブサイトの「入会案内」から入会の手続きを行ってください。
(<https://www.forestry.jp/welcome/#app>)
- ・ 学会員であっても、2026年度分の会費を未納の方は発表できません。大会前までに会費を納入してください。
- ・ 企画シンポジウムでは、非会員の方の研究発表を認める場合があります。その場合でも、発表者自身がオンラインによる参加登録と研究発表申込みを行い、参加費を支払う必要があります（下の「研究発表の申し込み」を参照）。
- ・ 発表者は筆頭者に限ります。筆頭者以外の著者による代理発表はできません。
- ・ 筆頭者としての発表は、すべての発表形式を通じて1人1件に限ります（ただし学会各賞を受賞された方の受賞者講演は除きます）。

4. 研究発表の概要

- ・ 研究発表は、部門別発表、企画シンポジウム、公募セッションに分けて行います。
- ・ 発表方法には、口頭発表とポスター発表があります。
- ・ 部門別発表は、林政、風致・観光、教育、経営、造林、遺伝・育種、生理、植物生態、立地、防災・水文、利用、動物・昆虫、微生物、特用林産の14部門からなります。部門選択の際には、末尾の「14. 部門キーワード」を参考にしてください。
- ・ 企画シンポジウムは、森林学に関する明瞭で簡潔にまとめたテーマをもったシンポジウムです。発表者はコーディネータが決定し、公募はしません。コーディネータから発表を依頼された方のみ、該当する企画シンポジウムへの研究発表を申し込んでください。今回の大会で開催される企画シンポジウムは、学会ウェブサイトに掲載しています。
- ・ 公募セッションは、既存の部門ではカバーできない部門横断的なテーマについて会員の研究交流を継続的に進めることを目的としたセッションです。ポスター発表が併設される公募セッションもあります。発表者は公募されます。今回の大会で設置される公募セッションは、学会ウェブサイトに掲載しています。

- ・ 部門別発表、公募セッションのいずれで発表するかは、原則として発表者の希望によりますが、プログラム編成委員会で調整を行う場合があります。
- ・ 研究発表は、森林科学に関する研究成果で、講演要旨集の原稿の締切（2026 年 1 月 13 日（火））までに結果と結論の得られるものとします。

5. 発表方法

1) 口頭発表（部門別・公募セッション）

- ◆口頭発表は対面会場での発表とし、オンラインでの同時配信およびオンデマンド事後配信は行いません。
- ・ 発表時間：15 分（発表 12 分、質疑応答 3 分）。
- ・ 発表方法：発表者が、会場に設置された Windows PC に収納された発表資料（パワーポイント／PDF ファイル）を操作しながら話す形式とし、その後座長の司会による質疑応答を行います。発表ファイルの会場 PC へのコピーは当日、各自で行っていただきます。発表者が自身の端末を使用して発表することはできません。
- ・ 調整討論：数題の発表ごとに、調整・討論の時間を配置する予定です。公募セッションの場合は、コーディネータの希望に応じて、さらに趣旨説明、総合討論の時間を設けます。

2) ポスター発表（部門別・公募セッション）

- ◆ポスター発表はオンライン掲示と現地掲示を併用します。オンライン掲示を必須とし、現地掲示は任意となりますが、希望者全員が現地掲示できるように十分なスペースを確保します。なお、オンライン掲示のみでも発表実績として認められます（詳細は下の説明を参照してください）。ただし、学生ポスターの審査は現地会場で行いますので、学生ポスター賞に応募する方は、現地掲示と対面での質疑応答が必要となることにご留意ください。

○【オンラインプラットフォーム Claris での掲示・発表方法】

- ・ ファイル提出：オンライン掲示用のポスターファイルを事前に提出していただきます。ファイル形式は PDF（A4 縦：1 枚のみ）、ファイル容量は 20MB 以下とします。音声付き動画ファイルは使用できません。
- ・ 発表方法：事前に提出されたポスターファイルを大会オンラインプラットフォーム Claris 内に掲示します。大会期間中は、大会参加者によるオンデマンド閲覧が可能です。
- ・ 質疑応答：掲示期間中はチャットによる質疑応答が行えます。

○【対面会場での掲示・発表方法】

- ・ 発表方法：対面会場では、会場に設置するパネルにポスターを貼付し、発表者が質疑に適宜応答する形式とします。コアタイムは 13：00～14：00 です。
- ・ ポスターのサイズ：現地掲示用ポスターのサイズは A0 サイズ、縦（横幅 841×縦 1189mm）とします。
- ・ 【重要】今大会では全てのポスター発表がオンラインで大会参加者に公表されます（オンライン閲覧用ポスターの辞退はできません）ので、この点を了解の上で発表申込を行ってください。
- ・ 【重要】対面会場にポスターを掲示する場合でも、大会オンラインプラットフォーム Claris にポスターファイルがアップロードされていない場合は今大会の正式な発表実績にはなりませんのでご注意ください。

3) 企画シンポジウム

- ・ 発表時間、発表方法など：最長 3 時間以内という枠の中で、コーディネータに責任を持って運営していただきます。発表者は、コーディネータの指示に従ってください。

6. 大会参加の申込み

大会参加の申込みは、会員・非会員を問わず、「大会参加申込システム」からオンライン登録で行います。電話、Fax、E-mailによる受付は行いません。「大会参加申込システム」は、学会の大会ウェブサイトにて10月20日頃に開設します。

＜研究発表をする場合＞ 大会参加の申込みと8.の研究発表の申込みの両方を行ってください。

＜研究発表をしない場合（聴講のみ）＞

入場には大会参加申込みと参加費の支払いが必要です。

研究発表をしない学部学生の参加費は無料ですが、参加申込みの手続きは必要です。「大会参加申込システム」で種別「発表なしの学部生（会員・非会員）※無料」を選択して下さい。

大会参加費（税込）

	一般会員	学生会員	非会員
早期申込み（2026年1月31日まで）	12,000円	5,000円	12,000円
2026年2月1日以降の申込み	14,000円	6,000円	14,000円

* 発表をしない学部学生の大会参加費は無料です（参加申込み手続きは必要）。

郵便振替での参加費の支払い 締切：2026年2月20日（金）17：00
これ以降の支払い方法は、クレジットカード決済のみです。

・大会参加費支払い期限

研究発表をする場合 締切：2025年11月14日（金）23：59

研究発表をしない場合 締切：2026年3月18日（水）23：59

- 参加登録の際、会員の方は会員番号の入力が必要です。
これから入会を予定しており、参加申込みの時点で会員番号をまだお持ちでない方は、「大会参加申込システム」から登録を行う際に仮番号が自動的に用意されます。ただし、講演要旨集原稿の提出には正式な会員番号の入力が必要です。講演要旨集原稿の提出締切の2026年1月13日までに会員番号が確実にお手元に届くよう、余裕をもって入会手続きを行ってください。
- 大会参加の申込み時に参加費の払込みを行います。
参加費の払込みは、「大会参加申込システム」から基本的にカード決済をお願いします。郵便振替をご利用の方は、「大会参加申込システム」で郵便振替選択ボタンをチェックの上、締切までに振替を行ってください。払込取扱票は、必ず参加者1名につき1枚ずつ使用してください。いったん納入された大会参加費は返却いたしません。
- 領収書は「大会参加申込システム」内から発行可能です。

郵便振替を利用される場合の払込取扱票への記入内容

口座番号：00160ー7ー789845

加入者名：一般社団法人日本森林学会 大会運営委員会

通信欄：以下の事項を記載してください

参加申込者氏名、RGで始まる参加受付番号、連絡先住所、所属、メールアドレス（もしくは電話番号）

＜懇親会について＞

懇親会参加費（税込）

	一般会員	学生会員	非会員
申込期限（2026年2月20日まで）	12,000円	8,000円	12,000円

7. 研究発表の申込み

研究発表の申込みは、大会参加申込の後に「大会参加申込システム」からオンライン登録で行います。大会参加申込みをただけでは、研究発表の申込みは完了していません。必ず大会参加申込みの後に研究発表申込みを行ってください。

締切：2025年11月14日（金）23：59

- 研究発表の申込みの受理には、参加費の払込みが事務局で確認されることが必要です。そのため、大会参加費のお支払いは、なるべくカード決済をお願いします。郵便振替によるお支払いは、学会事務局で確認されるまでに4～5日程度かかる場合もあります。余裕をもって手続きを行ってください。参加費の払込みが確認できない場合は、研究発表をキャンセルしたものとして処理いたしますのでご注意ください。
- 研究発表申込みの際に登録した著者名・所属、題名は、2025年11月14日（金）23：59以降は修正ができません。したがって、講演要旨集原稿の提出時にも修正ができません。申込みの際には、共著者（特に学生の方は指導教員の先生等）とよく相談した上でお申込みください。

8. 講演要旨集原稿の提出

講演要旨集の原稿は、発表申込の後に「大会参加申込システム」からオンラインで入力してください。

締切：2026年1月13日（火）23：59

- 参加費の払込みが事務局で確認された時点で、入稿が可能となります。入会予定の方は、入会手続きの完了も必要です。
- 原稿は、全角500字相当以内で日本語、または英語で入力してください（図表は使用できません）。ギリシャ文字、斜体、下付・上付文字などの入力、入力画面の説明を参考にしてください（ワープロからコピー＆ペーストしても文字飾りは反映されません）。
- 講演要旨集の原稿提出時に、研究発表申込みの際に登録した著者名・所属、題名の変更はできません。
- 大会講演要旨集のPDF版及び発表検索サイトを大会開催の約1カ月前に学会ウェブページに掲載する予定です。会場での大会講演要旨集の配布・販売はしません。大会終了後に、希望者に大会講演要旨集の冊子体を販売します。

9. 学生ポスター賞について

日本森林学会学生ポスター賞は、学生会員の研究の奨励を目的として、日本森林学会大会で優れたポスター発表を行った学生会員に授与されます。学生会員が筆頭発表者であり、研究発表申込時に学生ポスター賞に応募したポスター発表が対象です。学生会員の積極的な応募を期待しています。

学生ポスター賞の審査は、対面会場に掲示されたポスター及び会場での質疑応答により行います。3月17日のコアタイム（13：00～14：00）での質疑応答を審査対象とします。3月17日のコアタイムに欠席すると受賞できません。応募者は必ず出席してください

10. 高校生ポスター発表の募集

森林・林業への青少年の興味関心を喚起し、中等教育における学習研究を支援する目的から、高校生ポスター発表を募集します。応募の締切は2025年11月14日（金）です。会員の皆様におかれましては、お知り合いの高校の先生・生徒の皆さんに応募をお勧めいただければ幸いです。

11. 託児室の設置等について

会場に託児室の設置等を行います。詳細は後日大会ウェブページでお知らせします。

12. 関連研究集会について

本大会に付随して開催される関連研究集会について、大会運営委員会が3月19日の会場を用意します。会場の利用および大会プログラムへの記載を希望される場合は、日時、テーマ、会場の収容人数、ネット環境の利用の有無などの必要事項を記して大会運営委員会に申し込んでください。

締切：2025年11月28日（金）17：00

申込先：大会運営委員会 関連集会担当 (shukai@forestry.jp)

13. 大会に関する各種問い合わせ

- ・下記の問い合わせフォームからお問合せください。

<https://www.forestry.jp/inquiry/>

14. 部門キーワード

林政部門 Forest Policy

経済学・社会的アプローチ、森林・林業政策、林業経済、木材産業・流通、森林所有者、林業経営体・事業体、林業労働者、山村社会・経済、環境・資源ガバナンス、自然資源管理政策、文化、林政史・林業史、森林レクリエーション、市民参加・住民参加

economic and sociological approaches, forest and forestry policy, forest economy, forest products industry and market, forest owners, forestry management entities and forestry enterprises, forestry workers, mountain village society and economy, governance on the environment and resources, natural resource management policy, culture, history of forest policy and forestry, forest recreation, public participation

[部門長：芳賀大地（鳥取大学），委員：林雅秀（山形大学），笹田敬太郎（森林総合研究所），志賀薫（森林総合研究所），川崎章恵（愛媛大学）]

風致・観光部門 Landscape Management and Tourism

景観、公園緑地、自然公園、庭園、観光、レクリエーション、レジャー、ホスピタリティ、旅行業、保護地域管理、自然資源管理、協働型管理、野生動物管理、世界遺産、伝統文化、民俗、森林療養、心理と行動、里山、設計施工、文化的サービス、林業遺産

landscape, parks and open spaces, nature parks, gardens, tourism, recreation, leisure, hospitality, travel industry, protected area management, natural resource management, collaborative management, human dimensions of wildlife, world heritage, traditional culture, folklore, forest therapy, psychology and behavior, satoyama landscape, design and construction, cultural services, forestry heritage

[委員長：庄子康（北海道大学），委員：愛甲哲也（北海道大学），奥敬一（富山大学），平野悠一郎（森林総合研究所），山本清龍（東京大学）]

教育部門 Education

森林教育、森林環境教育、環境教育、野外教育、専門教育、学校教育、社会教育、林産教育、木育、教材・プログラム、教育効果・評価、指導者養成、技術研修、安全教育、地域学習、地域連携、サイエンスコミュニケーション、教育倫理、森のようちえん、自然体験活動

forest education, forest environmental education, environmental education, outdoor education, specialized education, school education, social education, forest products education, wood education, teaching materials and program, educational effect and assessment, leadership training, technical training, safety education, community study,

regional partnership, science communication, educational ethics, forest kindergarten, nature experience activity

[委員長：杉浦克明（日本大学），委員：井上真理子（森林総合研究所），東原貴志（上越教育大学），寺下太郎（愛媛大学），山田亮（北海道教育大学）]

経営部門 Forest Management

森林計画，経営評価，機能評価，施業体系，森林計測，森林調査法，成長モデル，モニタリング，リモートセンシング，森林GIS，ランドスケープ管理，衛星画像解析，UAV計測，航空レーザ測量，地上レーザ測量，デジタル写真測量，収穫予測，ゾーニング，森林経営の最適化モデル

forest planning, forest management assessment, forest function evaluation, silvicultural system, forest mensuration, forest inventory, growth model, monitoring, remote sensing, forest GIS, landscape management, satellite image analysis, UAV measurement, airborne laser scanning, terrestrial laser scanning, digital photogrammetry, yield prediction, forest zoning, optimization model for forest management

[委員長：長島啓子（京都府立大学），委員：松英恵吾（宇都宮大学），小谷英司（森林総合研究所），當山啓介（岩手大学），福本桂子（森林総合研究所）]

造林部門 Silviculture

森林施業，成長，競争，林分構造，現存量，密度管理，光環境，種子，育苗，植栽，更新，萌芽，保育，間伐，伐採，目標林型，低コスト造林，早生樹，伐期，混交林，広葉樹林化，里山管理

forest management, growth, competition, stand structure, biomass, density control, light environment, seed, nursery practices, planting, regeneration, coppice, tending practices, thinning, cutting, target forest type, low-cost silviculture, fast growing tree, cutting period, mixed forest, leading to broad-leaved forest, satoyama management

[委員長：太田敬之（森林総合研究所），委員：鶴川信（鹿児島大学），大野泰之（北海道立林業試験場），城田徹央（信州大学）]

遺伝・育種部門 Forest Genetics and Tree Breeding

遺伝的多様性，遺伝資源保全，遺伝構造，系統地理，適応の変異，ゲノミクス解析，オミクス解析，遺伝子発現，表現型計測，連鎖解析，量的形質遺伝子座，遺伝子流動，交雑，遺伝改良，育種価，育種集団，分子育種，花粉症対策，採種園，着花促進，種苗増殖，育苗技術，組織培養

genetic diversity, conservation of genetic resource, genetic structure, phylogeography, adaptive variation, genomics analysis, omics analysis, gene expression, phenotyping, linkage analysis, quantitative trait locus, gene flow, hybridization, genetic improvement, breeding value, breeding population, molecular breeding, countermeasure for pollinosis, seed orchard, promotion of strobilus, propagation of nursery stocks, nursing technology, tissue culture

[委員長：石塚航（北海道立総合研究機構），委員：内山憲太郎（森林総合研究所），坪村美代子（森林総合研究所），齊藤陽子（東京大学），花岡創（静岡大学）]

生理部門 Tree Physiology

樹木生理，個体生理，生態生理，水分生理，栄養成長，生殖成長，物質輸送，栄養，環境応答，ストレス耐性，光合成，呼吸，代謝，細胞小器官，細胞壁，植物ホルモン，組織培養，形質転換，遺伝子発現，ゲノム解析，エピゲノム解析，オミクス解析

tree physiology, whole plant physiology, ecophysiology, water relations, vegetative growth, reproductive growth, transport, nutrition, environmental response, stress tolerance, photosynthesis, respiration, metabolism, organelle, cell wall, plant hormones, tissue culture, genetic transformation, gene expression, genomics, epigenomics, omics

[委員長：田原恒（森林総合研究所），委員：小島克己（東京大学），斎藤秀之（北海道大学），津山孝人（九州大学），則定真利子（東京大学）]

植物生態部門 Forest Ecology

生物多様性，生態系サービス，生態系機能，生態系管理，森林景観，樹木群集，生物間相互作用，攪乱，植生遷移，物質循環，森林動態，落葉落枝，フェノロジー，種子生産，更新，樹形，資源分配，生活史戦略，気候変動，地理分布，生態モデリング

biological diversity, ecosystem service, ecosystem function, ecosystem management, forested landscape, tree communities, biological interaction, disturbance, plant succession, nutrient cycling, forest dynamics, litter and woody debris, phenology, seed production, regeneration, tree architecture, resource allocation, life-history strategy, climate change, geographical distribution, ecological modelling

[委員長：平山貴美子（京都府立大学），委員：赤路康朗（国立環境研究所），鈴木智之（北海道大学），辰巳晋一（京都大学），野口麻穂子（森林総合研究所）]

立地部門 Forest Environment

土壌生成，土壌分類，土壌理化学性，土壌分析法，炭素動態，窒素動態，物質循環，水循環，土壌生物，花粉分析，地位，森林衰退，大気降下物，地球温暖化，細根動態，放射性物質，生物地球化学，土壌呼吸，温室効果ガス

pedogenesis, soil classification, soil physical and chemical properties, soil analysis, carbon dynamics, nitrogen dynamics, nutrient cycling, hydrological cycle, soil organisms, pollen analysis, site quality, forest decline, atmospheric deposition, global warming, fine root dynamics, radioactive substance, biogeochemistry, soil respiration, greenhouse gas

[委員長：高木正博（宮崎大学），委員：石塚成宏（森林総合研究所），小野賢二（森林総合研究所），徳地直子（京都大学），戸田浩人（東京農工大学），長倉淳子（森林総合研究所）]

防災・水文部門 Forest Disaster Prevention and Hydrology

土砂災害，表面侵食，水循環，流域，降雨流出過程，蒸発散，樹木の水分生理，土壌水分，森林気象，緑化，水質，生物地球化学過程，同位体，トレーサー，大気降下物，地下水，温室効果ガス，気候変動，水資源，物質循環，モデリング，気象害，森林火災，樹木根系

sediment-related disaster, surface erosion, water cycle, catchment, rainfall-runoff process, evapotranspiration, hydraulic trait of trees, soil moisture, forest meteorology, revegetation, water quality, biogeochemical processes, isotope, tracer, atmospheric deposition, groundwater, greenhouse gases, climate change, water resources, material cycle, modelling, climate-induced forest damage, forest fire, tree roots

[委員長：小田智基（森林総合研究所），委員：篠原慶規（宮崎大学），江草智弘（静岡大学）正岡直也（京都大学），佐藤貴紀（東京農業大学）]

利用部門 Forest Engineering

森林路網，林業土木，木材生産，林業機械，林業用ロボット，作業システム，環境へのインパクト，労働科学，技術者育成，安全管理，バイオマス利用，森林情報，サプライチェーン，ロジスティクス，ICT，造林技術

forest road network, forest civil engineering, timber production, forest machinery, forestry robot, working system, environmental impact, ergonomics, engineer fostering, safety management, biomass utilization, forest information, supply chain, logistics, information and communication technology, reforestation technology

[委員長：櫻井倫（宮崎大学），委員：山口浩和（森林総合研究所），斎藤仁志（岩手大学），吉岡拓如（東京大学），白澤紘明（森林総合研究所）]

動物・昆虫部門 Forest Zoology and Entomology

森林昆虫，樹木害虫，きのこ害虫，穿孔性昆虫，マツ材線虫病，ブナ科樹木萎凋病，森林動物，野生動物管理，ニホンジカ，ツキノワグマ，森林性鳥類，土壌動物，生物間相互作用，共生，生物群集，食物網，生態系，生物多様性，個体群動態，密度調節，種子散布，外来生物，系統進化

forest insects, tree pests, mushroom pests, wood boring insects, pine wilt disease, Japanese oak wilt, vertebrates in forests, wildlife management, sika deer, Asian black bear, forest birds, soil animals, biological interaction, symbiosis, ecological community, food web, ecosystem, biodiversity, population dynamics, regulation of population density, seed dispersal, invasive species, phylogeny and evolution

[委員長：山崎理正（京都大学），委員：小池 伸介（東京農工大学），加賀谷悦子（森林総合研究所），吉田智弘（東京農工大学），片桐奈々（岐阜県森林研究所）]

微生物部門 Forest Microbes

菌類，細菌類，菌根菌，内生菌，木材腐朽菌，共生，寄生，分解，養分循環，根粒，窒素固定，微生物群集生態，微生物集団遺伝，樹病，病原，防除，抵抗性，マツ材線虫病，ブナ科樹木萎凋病，線虫，ウイルス

fungi, bacteria, mycorrhizal fungi, endophytes, wood-decay fungi, symbiosis, parasitism, decomposition, nutrient cycling, root nodule, nitrogen fixation, microbial community ecology, microbial population genetics, forest pathology, pathogens, disease control, disease resistance, pine wilt disease, Japanese oak wilt, nematodes, viruses

[委員長：松田陽介（三重大学），委員：太田祐子（日本大学），小松雅史（森林総合研究所），小長谷啓介（森林総合研究所），竹本周平（学習院女子大学），鳥居正人（森林総合研究所）]

特用林産部門 Non-Wood Forest Products

きのこ，マツタケ，シイタケ，エノキタケ，シメジ，たけのこ，わさび，うるし，樹脂，山菜，竹材，トウ，木炭，樹実類，薬用植物

mushroom, Matsutake, Shiitake, Enokitake, Shimeji, bamboo shoot, wasabi, lacquer, resin, edible wild plant, bamboo, rattan, charcoal, wild fruits, medicinal plants

[微生物部門委員会と同じ（略）]